Campus Today

松本歯科大学
発行所　学校法人　松本歯科大学
長野県塩尻市広丘郷原1780
☎ (0263)52−3100
www.mdu.ac.jp
1部60円

第６学年・宮田 星南君(山梨県出身)
高校在学中からヨーロッパにスキー留学し、オリンピック出場を目標に４年半、イタリアのバックマンスキー学校を主な拠点として練習を重ねた。コロナ禍の活動制限でやむなく帰国。歯科医師である父親の姿を見て、歯科医師を目指し歩む。

年頭のご挨拶

学長　宇田川 信之

あけましておめでとうございます。

松本歯科大学創立54年目のCampus Today新年号です。創立者 故矢ヶ﨑 康博士が掲げた「建学の理念」に想いを馳せ、教育に欠くべからざる「愛」の精神を忘れることなく、大きな希望を抱え未来へ向かって歩んでまいりましょう。

昨年の本学を総括します。歯学部においては、第１１８回歯科医師国家試験の本学の新卒者合格率は90・7％となり、5年連続90％超えを達成し、直近6年間の平均合格率は、全国29歯科大学・歯学部の中で第2位の結果となりました。ウイークリーテストをはじめとする本学独自の教育システムが結実したものです。矢ヶ﨑 雅理事長の下、本学の教育目標である「信頼される歯科医療人および研究者の育成」のため、更なる熱い力を傾注しましょう。

衛生学院は、入学定員を１００人に増員し、長野県における口腔の健康を支援する多職種連携可能な歯科衛生士の活動に貢献しています。

大学病院では、様々な病院改革がスタートし軌道に乗っております。歯科診療部門においては、歯科医師養成機関としての機能を果たしながら、過去最高の医療収入を更新しました。また、歯科医科連携診療部門の健診センターの人間ドックにおいては、膵臓がんの早期発見を目指した膵臓検診と無痛MRI乳がん検診を開始しました。

大学院歯学独立研究科には、本学卒業生のみならず、姉妹校の河北医科大学の卒業生をはじめ多くの中国からの留学生が入学しました。現在、本学では、硬組織・疼痛・歯周病・再生医療・IgG4関連疾患・骨粗鬆症などの研究活動が活発に遂行されています。ノーベル賞級の新たな発見を期待します。さらに、日本口腔顔面痛学会（JAPAN PAIN WEEK）（金銅英二教授）、日本歯内療法学会（増田宜子教授）、日本総合歯科学会（音琴淳一教授）、日本歯周病学会（吉成伸夫教授）、日本咀嚼学会（増田裕次特任教授）の学術大会が大会長や理事長として開催され、歯科医学研究発展の舵取りを担っております。

歯科医師・歯科医療の社会的価値は高まっています。今後さらに、口腔管理の重要性がクローズアップされてくるでしょう。厚生労働省の「医師・歯科医師・薬剤師統計」によると、２０２２年、日本の歯科医師数が初めて減少しました。全国の歯科診療所数は、２０１６年をピークに減少の一途です。

内閣府による「経済財政運営と改革の基本方針２０２５」（骨太方針２０２５）では、「歯科医療機関・医歯薬連携などの多職種連携」に取り組む政府の指針がさらに一層強く表明されました。すなわち、「糖尿病と歯周病との関係など全身の健康と口腔の健康に関するエビデンスの活用」「生涯を通じた歯科健診（いわゆる国民皆歯科健診）」「オーラルフレイル対策・疾病の重症化予防につながる歯科専門職による口腔健康管理の充実」などです。今後、要介護高齢者への訪問診療体制の強化、市役所・保健所や総合病院への歯科医師および歯科衛生士の配置は喫緊の最重要課題です。今こそ、歯科医師を志望する優秀な若者を増やすことが急務です。

我が国は、２０４０年に高齢者人口はピークを迎え現役世代が急減し、国内経済や社会維持が危機的状況に陥るとされています。２０４０年には、大学進学者数が現在の70％となる予想です。独自性を発揮して今まで発展してきた松本歯科大学の存続・発展のためには、本学に勤務する我々ひとりひとりが担当分野を自ら解析・改革していくことが重要です。このことこそ、本学の運営基盤の強化に直結するわけです。

日本の未来を左右する歯科医師という尊い職を目指す若者を育てるため松本歯科大学は存在します。是非、一緒に新たな「挑戦」をめざしましょう！

本年も皆様のご多幸と松本歯科大学のますますの発展を心からお祈り申し上げます。

２０２６年が幸ある年となりますように。

選挙で同票の場合はどう決まるか

内閣官房参与
松本歯科大学理事（特命）
特命教授　飯島　勲

今月号では『プレジデント』12月19日号「リーダーの掟 飯島 勲」より、「選挙が同票の場合 当選がどう決まるか君は知っているか」の記事を要約して紹介します。

11月9日に投開票された茨城県神栖市長選は、なんと2人の候補者が全く同じ1万6724票で並び、くじ引きで新人の木内敏之候補の当選が決まった。無効票が219票あることから、くじで敗れた現職の石田進氏は早速、異議申し立てを行い、再集計を求めている。

得票数が同数となった場合、くじ引きで当選者を決めるという仕組みは、公職選挙法第95条2項に定められている。私も議員秘書時代に知り、その際にどう対応すべきかというシミュレーションは行ったものの、私が関わってきた国政選挙では遭遇する機会がなかった。地方議会選挙ではこの同数当選がしばしば起きているようだ。これは一例だが、思ったより頻繁に起きている。

2021年　千葉県旭市議選
2019年　神奈川県相模原市議選
2019年　埼玉県狭山市議選
2018年　佐賀県有田町議選
2017年　島根県飯南町議選
2010年　青森県大鰐町長選

相模原市や狭山市など、比較的人口が多い自治体でも、くじ引きが行われていることに驚いた。地域にわだかまりは残らないのだろうか。

一票の重みで思い出すのは、私のふるさと長野県における、長野市と松本市のライバル関係である。歴史を振り返ってみると、1871年の廃藩置県後、信州には14の県ができたが、その後の統廃合で旧長野県を中心とした長野県と現在の松本市を中心とした筑摩県の2県に絞られた。1876年、筑摩県を長野県に統合することになり、県庁所在地を長野と松本のどちらにするかで意見が真っ二つに割れた。明治新政府が武士の町であった松本を嫌って長野に決めたといわれているが、私の地元では、長野派が入院中の議員を戸板で議場に運んで、長野市に投票させて一票差で勝ったという説が伝わっている。そして、現代でも松本市民はその結果に納得していないのである。当時のことを具体的に知る人はいなくなっても、そうした風潮は緩やかに残っている。一票差での決着というのはそれほど重いのである。だから、長野市を中心とした北信の出身者と、松本以南の中信・南信の出身者が東京で出会って同じ信州人だからと意気投合しても、「信州のどこ出身?」という話題が出ると、一瞬で気まずい雰囲気が流れるのが常である。ちなみに私の故郷である辰野町は南信だ。

有権者の大切な一票で決まる選挙

今回の神栖市の場合は、219票の無効票があることも、くじ引きで敗れた側が納得できない理由の一つだろう。どうしても手書きだと読み取れない悪筆の人がいて、無効票となるケースは避けられない。電子投票の導入で無効票を減らすというのも一つの手段かもしれない。

しかし、地方選挙では立候補者の減少傾向が続いていて、無投票当選者の割合がどんどん増えるという問題も起きている。同様に、定数割れの議会も増加傾向にある。地方議員の成り手不足問題の原因として、議員報酬が安すぎるという声がよく聞かれる。特に、月額の手取り報酬が15万円程度の町村議員など、それでは暮らしが成り立たないというのだ。実際に報酬の増額を検討する議会も出てきている。

私はこの意見に反対である。政治に携わることを、生活の糧を稼ぐ仕事と一緒にしてほしくない。議員を志すなら、生活の基盤を確立したうえで、地域社会に貢献するといった形が望ましいと思う。言い方を変えれば、有権者としては、自分の生活のために議員になった人より、自分の生活に関係なく地域のことを考えている人のほうが信頼できるのではないか。

少なくとも、議員として政治にかかわっていくのであれば、現世利益を求めてはならないと思う。自分の行った政治が正しかったか過ちだったか、答え合わせがされるのは自分がこの世を去ってからだ。そうした覚悟なくして、政治家になるべきではないと思う。

国会議員と違い、公務員や公共機関の職員など一部で兼業できない業種もあるものの、地方議員は兼業できる。多くの地方議会は、3、6、9、12月の年4回開催で、一年中拘束されるわけではない。農業従事者でも、民間企業のビジネスマンでも、日常生活の中で感じた地域の課題を、議会活動を通じて解決できると思えば、議員になりたいと手をあげる人も出てくるだろう。だからこそ、理想を持って立候補してもらいたい。報酬の増額につられる人は、議員にふさわしくない。

第4学年歯科補綴学実習Ⅱ
歯科医療のデジタル化学ぶ
～口腔内スキャナーを用いた光学印象実習～

光学印象実習に取り組む第4学年生

第4学年歯科補綴学実習Ⅱで昨年11月10日（月）、近年の歯科医師国家試験や歯科医療のデジタル化に対応すべく、口腔内スキャナーを用いた光学印象実習を行った。

光学印象は、従来の印象材を使う型取りと異なり、光やカメラで歯列を読み取って3Dデータを作成するため、患者にかかる負担が少なくデジタルデータを取得、活用できる点が特徴となる。歯科医療のデジタル化はいま、急速に進んでおり、口腔内スキャナーを用いた光学印象を実習することの重要性が一層高まっている。

本学は臨床の場において6台もの口腔内スキャナーを導入しており、デジタル技術に触れ、学べる環境が充実しているといえる。実習ではまず、光学印象の原理や感染管理を理解してもらい、続いて各スキャナーを使って顎模型のスキャンや咬合採得をした。スキャン後のデータ確認や修正・追加スキャンなど、学生たちには実際の診療に直結する工程も経験してもらった。

今回の実習でも、全ての学生が口腔内スキャナーに触れ、デジタル技術を応用した歯科治療について学び、実感することができた。今後も、歯科補綴学講座として、最新の歯科技術を取り入れた実習を行い、学生がデジタル技術に対応できる歯科医師になれるよう指導していきたい。

（歯科補綴学講座　助手　堀江貫裕）

岡藤範正教授　横井由紀子准教授　らがクインテッセンス出版より刊行
『子どものための機能的マウスピース矯正装置』

大学院歯学独立研究科硬組織疾患制御再建学講座の岡藤範正教授と、歯科理工学講座の横井由紀子准教授はこのほど8人の専門家とともに、機能的マウスピース矯正装置の有用性についての共著『別冊ザ・クインテッセンス 子どものための機能的マウスピース矯正装置』を、歯科専門出版社「クインテッセンス出版」から刊行した。子供の矯正治療の選択肢としても関心が高まっているこの装置について説明し、臨床応用の事例も交えて使い方を解説した。

著者の岡藤教授（左）と横井准教授

歯並びへの意識が高まり、いま歯科矯正治療は幅広い年齢層から一段と注目を集めている。機能的マウスピース矯正装置はその治療の選択肢の一つとして用いるもので、透明で目立たないため抵抗感なく装着しやすいことや装着時の痛みが少ないことなどから、子供の矯正治療の場面でも関心を寄せる保護者が増加傾向にある。そこで岡藤教授たちは、最新の情報や知見に基づいて、子供を主体とする内容で選び方や使い方を詳しく解説しようと出版を決めた。

機能的マウスピース矯正装置について、メーカーごとの製品の特徴やさまざまな臨床応用の事例について、多くの画像や図、イラストを使って工夫を凝らし、詳しく解説した。また、コラム形式でマウスピースの日常的な手入れに役立つ洗浄・除菌剤なども紹介し、歯科医療の現場で患者さんへのコンサルテーションでも生かせる内容とした。岡藤教授は「子供の矯正治療で悩んだらまずこの本を手に取っていただき、多くの方にご活用いただければうれしい」と話している。

A4判変型、カラー全136ページ。定価7480円。

創立者の「視点」

大学誌編集主幹
特任教授
笠原　浩

痛みと歯科医療③

歯科臨床と関わりが深い「痛み」を少し調べてみましょう。

1989年に市岡正道・佐藤公道の共著「痛みとはなんだろう」が出版されていますが、それによれば、「痛み」はそれを定義するだけでも、当時は容易なものではなかったようです。

「痛み」が身体の異常を感知する感覚であることは確かですが、単なる感覚とは言えないものだからです。例えば、古代ギリシャの哲人アリストテレスは、ヒトの感覚を視・聴・嗅・触・味の5種とし、痛みは精神的なもので、むしろ感情の状態のひとつだとしています。

他の感覚が、生体が接する外部の情報を伝えるものであるのに対し、痛みの感覚は生体に加えられた傷害を感受して、直ちに防御のための反応を生じさせるという点で、特殊なものだと考えられたのでしょう。

市岡は、前記の書籍の冒頭で「生物にとって痛みとはなんだろう」と題して、それまでの研究者の業績をまとめています。昆虫などの下等な無脊椎動物には痛覚は存在しないようだが、魚類以上の脊椎動物になると、痛み刺激に対して、それから逃れようとする反応を示すことから、痛覚は生体防御という意味を持っているとしています。

けれどもヒトでは、「痛み」が単なる感覚ではなく、情動でもあることは確かです。有害な刺激によって生じた不快な感覚が神経伝導路を介して中枢神経系に達し、痛みとして知覚されることになります。

ところで、皮膚に外傷を負った場合などの痛みが2種類あることにお気付きでしょうか。足を机の脚などにぶつけた場合、最初に反応時間が0・1～0・3秒の鋭い痛みがあります。痛みの始まりも終わりも速く、局在がはっきりしています。次いで反応時間が約1秒の鈍く不快な痛みが来ます。終始が緩慢で長引き、局在も不明確なものです。前者は有髄線維（Aδ）、後者は無髄のC線維によるもので、これは神経の伝導速度に相違があるためです。

刺激の大きさに応じてこうした神経路を走るインパルス（痛知覚）には、健康人であればほとんど個人差はないはずですが、それに対する情動（痛反応）は、主観的な態度で大きく変わります。

多くのヒトは痛みに対して、表情の変化、叫び声、足踏みといった外部行動や、脈拍や血圧の変動などの内部行動を示すものですが、どの程度の痛みでそうした反応が現れるかという境界を「痛反応閾値」と呼びます。

一般的には、男性よりも女性、子どもや若者よりも高齢者、ラテンアメリカや南欧系の人たちよりもネイティブ・アメリカンや日本人のほうが、この閾値が高い（痛みに対して我慢強い）と言われています。

同一のヒトであっても、これは情緒的な状態や周囲の状況などによって大きく変わります。極端な例では、火事場のような緊急事態では、負傷しても気が付かないこともあるでしょう。逆に、歯科治療を前にして不安と恐怖に脅えている際などは、わずかな刺激でも強い痛みを感じかねないものなのです。

日本歯科保存学会 2025年度秋季学術大会

歯科保存学講座の３分野からポスター発表

昨年11月6日（木）、7日（金）の2日間にわたり、長崎市の出島メッセ長崎において、日本歯科保存学会2025年度秋季学術大会（第163回）が開催された。本学からも多くの歯科医師、大学院生が参加し、歯科保存学講座の3分野から、1演題ずつポスター発表を行った。

吉成教授（右）と発表ポスターの前に立つ三浦診療助手（中央）と筆者

保存修復学分野からは甲田訓子助教が、近年保険収載されたPEEK（ポリエーテルエーテルケトン）が機械的歯面清掃により受ける影響について発表された。また、歯内療法学分野から佐々木惣平助手が、根管充填用シーラーにレスベラトロールを併用することによる骨芽細胞への影響について発表された。さらに、歯周病学分野からは、三浦貴人診療助手が、喫煙を継続することにより増加する喫煙指数（ブリンクマン指数）の歯周病の重症度に対する影響について報告を行った。

ポスター討論では、各演者とも大学関係者や開業歯科医からの質問を受け、今後の課題の発見と発展につながる有意義な時間となった。

また、保存修復学分野の亀山敦史教授は、歯科衛生士シンポジウム・科学的根拠に基づいた蝕マネジメントで、歯内療法学分野の増田宜子教授は、学会主導型シンポジウム「マイクロスコープで挑む―歯内・修復・歯周治療の新たな展開―」で、歯周病学分野の吉成伸夫教授は、教育講演「長崎における基幹病院のペイシェントハラスメント対策と対応」で座長を務められ、多くの参加者が聴講した。

学会の参加者は、長崎の温暖な気候、国際色豊かな食事を楽しみ、親睦を一層深めることができた。

（歯科保存学講座（歯周）　准教授　出分菜々衣）

元専修生の趙（ジャオ） 増波（ゾンボウ）先生の論文が国際的学術誌に掲載

本学の充実した環境を研究成果として世界へ発信

中国・河北省から専修生として派遣され2024年5月から半年間、松本歯科大学病院で臨床研修に励み、現在は河北医科大学口腔医院副主任医師・副教授の趙　増波先生の論文が、このほど国際的な学術誌「BMC Oral Health」に掲載された。

タイトルは「A rare case of long-term retention of a fractured endodontic instrument in the alveolar bone without adverse effects on the successor tooth」で、本学病院での研修中に臨床で経験された稀少な症例に関する研究を、同時期に共に専修生だった路（ルウ） 月亭（ユエティン）先生（河北医科大学第四医院主治医師）と岳（ユエ） 磊（レイ）先生（河北医科大学第二医院副主任医師）、筆者、本学病院初診室（総合診断科・総合診療科）の洪（コウ） 鈺綺（ギョクキ）助手、河北医科大学口腔医院主任医師・教授の馬（マ） 哲（ジャ）先生との共著として発表した。

趙先生と掲載誌の表紙・論文タイトル画像（下）

趙先生は病院初診室において、多くの代表的な症例と向き合う中で、今回の論文執筆につながる稀有な症例に出合ったという。初診室の先生方による専門的かつ丁寧な指導のもと、文献検索から画像解析、そして考察の執筆に至るまで、多岐にわたる助言を受けながら研究を進められた。今回の論文掲載の成果について「松本歯科大学の充実した環境が、国際的な学術成果として世界に発信する、大きな一歩へとつながりました」と語られている。また、今回の貴重な研修機会を与えてくれた河北省衛生健康委員会や、河北医科大学口腔医院に心から感謝し、「松本歯科大学で得た経験を力に変え、今後も研鑽を続け、臨床・教育・研究の発展に寄与できるよう、努めてまいります」と力強く抱負を述べていた。

（病院初診室（総合診断科・総合診療科）特任教授　内田啓一）

病院だより vol.71

整形外科（3）

より良い回復のために

～リハビリに向き合う心構えと広がる連携～

リハビリテーションは、患者さんと医療者が一緒につくる〝協力のプロセス〟です。そこで治療内容そのものと同じくらい大切になるのが、患者さんがどのような心構えでリハビリに向き合うか、という点です。今回は、前向きに回復へ進んでいくための考え方と、当科の取り組みについてお話しします。

まず大切なのは、「良い日・悪い日はあって当然」と知っておくことです。

リハビリは階段のように着実に上がっていくものではなく、波を繰り返しながら少しずつ前進していくものです。

調子が崩れたと感じる日でも、それは回復の過程の一部であり、決して後戻りしたということではありません。焦らずに、自分のペースで続けていくことが大切です。

また、「自分の体に気づく姿勢」を持つことも大きな助けになります。どの動きが楽か、何をすると痛みが軽くなるかといった小さな気づきは、リハビリ計画を調整する貴重な情報です。理学療法士はその気づきを一緒に分析し、改善の道筋を探していきます。その気づきを共有することで、効果的なリハビリに近づくことができると考えます。

日常生活でのちょっとした意識も重要です。歩くペースを整える、深呼吸を増やす、同じ姿勢を続けないなど、小さな工夫が身体の回復に大きく貢献します。リハビリは病院だけで完結するものではなく、生活そのものが大切な訓練の場になります。

当科では、より適切な支援を行うために、医科と歯科が連携した取り組みもしています。姿勢や歩行と、噛む力などの口の機能がどのように関係しているのか、多角的に捉えることで、身体全体の理解が深まりつつあります。

こうした連携は、患者さんの〝取り組みやすさ〟を高め、効果的なリハビリへつながる新しい視点を与えてくれます。

これからも、患者さんが安心して前向きに取り組める環境づくりを大切にしながら、医科歯科連携の強みを生かした支援を続けていきます。

（整形外科　理学療法士　岡崎　瞬）

整形外科のスタッフ

金銅英二教授を大会長に

JAPAN PAIN WEEK 幅広い領域から参加者多数 盛大に開催

12月4日（木）～6日（土）まで東京ビッグサイトにてJAPAN PAIN WEEK（JPW）が開催された。日本痛み関連学会連合（8学会）の中の日本疼痛学会と日本運動器疼痛学会、日本ペインリハビリテーション学会と日本口腔顔面痛学会の4学会が合同開催したもので、共催として日本ペインクリニック学会、日本慢性疼痛学会、日本腰痛学会、日本頭痛学会が参画し、実質は国内のすべての痛みに関連する学会が参加する国内最大級の痛みの合同学会となった。歯科領域が中心となる日本口腔顔面痛学会は第30回の学術大会となり、節目の大会長、そしてJPW合同学会の大会長を併せて拝命した。

歯科はもちろん整形外科、麻酔科、脳神経外科、精神科、神経内科などに加えて薬剤師、看護師、理学療法士、柔道整復師、鍼灸師、臨床心理士など幅広い領域から1350人を超える参加登録をいただき、盛大に開催された。また会期中、日本口腔顔面痛学会・日本頭痛学会共催シンポジウムや各種教育講演など興味深い内容が多数組まれ、立ち見も出る盛況ぶりだった。また6日（土）の閉会式後、隣接する会場で第30回日本口腔顔面痛学会サテライトプログラムとして「口腔顔面痛開業医の症例相談シンポジウム」や「口腔顔面痛臨床に役立つ基礎知識―筋・筋膜性疼痛と舌痛症―」などもあり、あらためて歯科医師が顎顔面領域、頭頸部の痛み診断・治療に重要な役割を果たしていることを深く理解していただき、多職種連携の重要性を再認識する場ともなった。

実態調査の結果、わが国の慢性疼痛の有病率は全成人の22・5％、推計患者数は2315万人と報告されている。我々は、JPWから発信される最先端の疼痛研究や疼痛治療が痛みに苦しまれている患者様を一人でも多く救う手立てとなることを目指している。JPWは3年間の継続開催が決定しており、次回は2026年12月3日（木）～5日（土）に東京ビッグサイトで開催される。

（衛生学院長　解剖学講座　教授　金銅英二）

大会関係者と盛会を喜ぶ筆者（右端）

27000球のLEDが冬の夜を彩る

大学ヒマラヤ杉のイルミネーション

病院東側にある大学のシンボルツリーのヒマラヤ杉が、この冬もイルミネーションで彩られ輝いている。点灯は1月14日（水）までの毎日午後5時～10時で、創立記念日の1月29日（木）と卒業式の2月5日（木）にも点灯する。

クリスマスのシーズンに合わせて点灯を始め、今季で33回目となった。樹齢約60年、高さ約17メートルのヒマラヤ杉には、昨季より5000球多い約27000球のLED電球を、より美しく輝くように配列も工夫して飾り付けた。

昨年11月28日（金）の点灯式には、近隣から家族連れなどが多数集まり、カウントダウンをしてその瞬間を待った。点灯式後は、病院で、恒例となっている子供向けの歯磨き指導やプレゼント贈呈の時間もあり好評だった。

煌々と輝くイルミネーションツリーと集まった子供たち

「自分の故郷の良いところ」をテーマにプレゼン

第1学年・情報リテラシー発表会

第1学年の授業科目「情報リテラシー」は12月9日（火）、キャンパスイン101教室で、学生が今までの学習成果を披露する発表会を行った。

2時限目から3コマを使い約4時間にわたって、70人がそれぞれ「自分の故郷の良いところ」をテーマとして発表した。

情報リテラシーは、現代社会を生きる上で欠かせない。インターネット上には、間違った情報や意図的に作られた嘘の情報（フェイクニュース）が多く存在しており、騙されないためには、情報を疑い、正しく判断する力が不可欠である。また、インターネット上で、自分の個人情報がどのように扱われるかを知り、適切に管理することはとても重要で、情報リテラシーがあれば、トラブルから身を守ることにもつながる。

大学に入学して初めて地元を離れた学生も多いため、故郷の良いところを再確認する意味で自分の育った地元について考えてもらった。

故郷の文化遺産や名産品などについて発表する富永煌馬君

各自が選んだテーマに基づきアンケートを作成して学生全員に回答してもらい、結果をエクセルを駆使して表やグラフにし、パワーポイントにまとめ、考察を含めて発表した。

台湾、韓国、中国からの留学生を含め、国内外から集まった学生の発表は、どれも郷土色豊かな幅広い内容となり、独創性を感じさせるものであった。

日本語を毎日勉強している留学生は自分の伝えたい内容を堂々と日本語で発表することができ、素晴らしい成果であった。

（生化学講座　教授　中村美どり）

内田啓一特任教授がテルモ社口腔セミナーで講演

テーマは「歯周病と全身疾患の意外な関係」

テルモ株式会社甲府工場（山梨県）で12月12日（金）、本学病院初診室（総合診断科・総合治療科）の内田啓一特任教授を講師に迎えて、従業員向けの口腔セミナーが開催された。

内田特任教授は「歯周病と全身疾患の意外な関係」をテーマに、歯周病が単なる口腔内の問題にとどまらず、糖尿病、心臓病、脳梗塞、認知症など、深刻な全身疾患と深く関連していることを、本学歯科保存学講座（歯周）の吉成伸夫教授らとの共同研究結果を交えて解説した。

内田特任教授は、歯周病が歯ぐきの炎症から始まり、その炎症性物質や細菌が血管を通じて全身に広がり、各臓器に悪影響を与えるメカニズムを説明。特に、糖尿病との双方向の悪影響や、動脈硬化を促進することによる心臓病・脳梗塞のリスク増大といった、具体的な病態への影響を強調した。

締めくくりとして、「痛みがないからと放置せず、定期的な歯科検診とプロフェッショナルによるクリーニングが、全身の健康を守る最良の予防策です」と強く呼びかけた。

参加者は熱心にメモを取りながら聴き、会場からは「歯周病がまさか糖尿病や心臓や脳にまで影響するとは知らなかった」「明日からもっと丁寧に歯磨きをしようと思う」といった声が聞かれた。

主催者側はセミナーを振り返り「全身の健康を見据えた口腔ケアを従業員に伝えていくことの重要性を再認識した」などと話していた。

口腔セミナーの模様

Alumni News

松本歯科大学校友会

新潟県支部　鷹股哲也特任教授が講演

「スポーツ歯科における私の取り組み」

松本歯科大学校友会新潟県支部「蒼穹の会」は昨年11月15日（土）、令和7年度学術講演会を新潟市の県歯科医師会館で開催した。

会場の都合でZoomでのハイブリッド開催とさせていただいた。

講師は一昨年に引き続き松本歯科大学特任教授・鷹股哲也先生で、「スポーツ歯科における私の取り組み」の演題でお話しいただいた。

鷹股先生は、松本歯科大学創設当初1972年に歯科補綴学講座助手となり、米国インディアナ大学、英国ロンドン大学客員教授、松本歯科大学ロンドンクリニック、2021年に日本補綴学会終身指導医、2023年に日本スポーツ歯科医学会専門医・指導医になられ、同年に長野県スポーツデンティスト協議会会長に就任されている。

2024年は在職52年を振り返る懐かしさから詳細の説明が主となり時間不足となってしまったが、今回は本題を中心に話していただいた。

新技術の3Dプリンターで作るマウスガード実験や、素材の物性試験など興味深いものがあり、懇親会でも経験豊富な義歯補綴のアドバイスもしていただいた。大学の様子も聞くことができ、夜もふけるまで盛り上がった。

臨床経験も豊富な教授の明日の臨床に役立つお話を聴くことができ大いに勉強になり、更に研鑽を続けていきたいと思う。

（新潟県支部広報担当　6期生　佐藤　隆）

鷹股先生（前列中央）を囲む支部会員

韓国人留学生

金 鍵澔（キム コンホ）君

日本語スピーチコンテストで発表

県内の大学などで学ぶ留学生が日々の思いを発表する「留学生による日本語スピーチコンテスト」（松本東ロータリークラブ主催）が昨年11月28日（金）、松本市内で行われた。

事前の審査で選ばれた歯学部第1学年の韓国人留学生、金鍵澔君が出場、「違いを超えてつながる力　TWICEから学んだ連帯の価値」をテーマに、落ち着いて発表し好評を得た。

コンテストは32回目。「連帯」をテーマとする発表に45人が応募し、事前審査を通過した中国や韓国など5つの国と地域の10人がこの日のステージに立った。

金君は、2025年3月に本学に留学。韓国の文化や価値観との違いを感じながら日本での生活に適応しようと努力していることを「自分の成長の土台にできる」と考えることが、価値観が多様化する現代社会を生き抜く方法ではないかとし、アジアで活躍する女性アイドルグループとの共通性にも触れながら力強く述べた。

入賞は逃したが、金君は「さまざまな国の留学生に出会い、友達になれて本当に意義深い経験ができた。もっと日本語が上手になれるようさらに努力しようとあらためて決意した」と充実した表情で振り返っていた。

力強く日本語で発表する金君

東海大学付属諏訪高校の1年生が来学

歯学部の学生生活を実体験

茅野市の東海大学付属諏訪高等学校の1年生23人が12月4日（木）、本学を訪れ歯学部の学生生活を体験した。教授陣が特別編成した模擬授業や模擬実習を提供し、高校生たちはその一つ一つに関心を寄せていた。

将来の進路選択の参考にしてもらおうと、高大連携事業として、高校側の要望に応えるかたちで実施した。一行は、実習館312教室の階段教室で大学院歯学独立研究科健康増進口腔科学講座の川原一郎教授から、併設の衛生学院を含めた本学の特色などについて聞いた後、実習館101教室に移動し、黒岩昭弘教授と洞澤功子准教授による第2学年の歯科理工学実習を見学した。教授らは生徒たちを前に歯科技工物を作る鋳造も実演し、生徒たちは初めて見る作業に目を見張った。

解剖学講座の平賀　徹教授は「虫歯はなぜ痛い」をテーマに歯の構造を詳しく解説し、歯の標本を顕微鏡で観察する方法も丁寧に指導した。

大学院歯学独立研究科長の平岡行博特任教授は「酸素をタップリ吸い込もう?」をテーマに講義し、「いろいろな仕事があるが、実験する人生、研究する人生も、将来の選択肢にしてほしい」と語りかけた。

生徒たちは、学生食堂でのランチも楽しみ、大学生気分を存分に味わっていた。

黒岩教授から鋳造の説明を聞く高校生

人事異動

〔死亡退職〕
川原　一祐（大学誌編纂委員（契約職員））　11月2日付
二條　貞子（特任教授）　11月12日付

〔採用〕
藤井　加代（事務局学事室事務員）　12月1日付

〔定年退職〕
片岡　礼子（病棟看護師室看護師）　12月6日付

〔採用〕
片岡　礼子（病棟看護師室看護師（契約職員））　12月7日付

1月行事予定

5日(月)～6日(火)　卒業試験（第6学年）
6日(火)～8日(木)　後期定期試験Ⅱ（衛生学院第3学年）
8日(木)～9日(金)　演習Ⅶ（第6学年）
14日(水)　ファウンダーズデイ
15日(木)～28日(水)　定期試験（第1～3学年）
24日(土)　共用試験OSCE（第4学年）
27日(火)　一斉技能試験（CSX）（第5学年）
総合型選抜Ⅲ期（衛生学院）
社会人選抜Ⅲ期（衛生学院）
一般選抜Ⅰ期（衛生学院）
29日(木)　創立記念日（54周年）
31日(土)～2月1日(日)　第119回歯科医師国家試験（東京）

受験生の皆さんへ
見せてほしい　君の個性　君の情熱

一般選抜（Ⅰ期）
共通テスト利用選抜（Ⅰ期）

●試験日
2026年2月2日(月)・3日(火)
◎希望する試験日を選択、または両日の受験も可能です。
共通テスト利用選抜は、個別試験はありません。

●出願期間
1月6日(火)～27日(火)

●試験場
本学・東京・大阪

■お問い合わせ■
HOT LINE 0263-54-3210
松本歯科大学　入試広報係
www.mdu.ac.jp

Matsumoto Dental University SNS Information

LINE　X　Instagram　facebook